

薬剤師の在宅医療参画を困難にする要因に関する他職種を交えた意識調査

○田代 智也¹, 町田 いづみ¹(¹明治薬大)

【目的】薬剤師の在宅医療への参画を困難にしている要因について、チーム介入を基本とする在宅医療の視点からは、他職種の意見を交えた検討が必要不可欠ではないかと考え、薬剤師と看護師へのアンケート調査をもとに薬剤師の在宅医療への参画を困難にしている要因を明らかにすることとした。

【方法】2013年3月8日から31日を調査期間とし、1都3県に所在する薬局に勤務する薬剤師100名へのインターネット調査、および、インターネット上に公開されている1都3県に所在する訪問看護ステーション200施設に勤務する看護師を対象にアンケート調査を実施した。その内、薬剤師178名(在宅医療参画80人：非参画98人)と看護師95名を対象に分析を行った。

【結果】在宅医療への薬剤師の参画を困難にしている要因について、有意に多くの薬剤師が「薬局内の薬剤師の人数不足」を挙げた(在宅医療参画薬剤師61.3%：非参画薬剤師群85.7%)。看護師では「地域医療での薬剤師の積極性の不足」を要因とする者が有意に多かった(70.5%)。薬剤師の在宅医療における機能に関する薬剤師群同士の比較では有意差が認められなかった。しかし、薬剤師と看護師の比較では、薬と医療材料の配達、状態評価と治療計画の4項目で有意差がみられ、看護師の薬局薬剤師に対する治療者としての評価が低いことが示された。一方、8割以上の看護師と薬剤師が「情報共有」を薬剤師の機能として挙げていた。

【考察】少人数薬局での訪問件数の伸びを示す研究結果がある中で、「人数不足」は参画困難理由としての説得力を欠く。積極的に在宅医療に参画し、薬物治療の専門家として機能することで、有用な存在として周知される。結果として、薬剤師ニーズが高まるなどの好循環を作り出すのではないかと考える。